



第57号

木曾川町連区



地域づくり協議会だより

【発行日】令和5年4月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会
〒木曾川町内割田一の通り27(一宮市木曾川庁舎内) ☎84-0005
【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp
【ホームページ】http://138kisogawa.org 木曾川町連区で検索してね♪



↑
こちらからどうぞ

家庭・地域に支えられて

木曾川東小学校 校長 石原 智徳

先日、本校で6年生が地域の歴史講話の出前授業を受けました。これは地域づくり協議会の活気部会で企画していただいたものです。6月には、3年生も地域学習の発展として講話をいただいております。

また、卒業を控えた2月上旬には、本校の卒業生である中学生が来校して、中学校の様子を6年生に紹介する会も開催されました。これは昨年度の夏の、Junior Talk in Kisogawaで小学生と中学生が話し合い、小学生の要望を受けて実現したものです。



地域の方々の温かいご支援のおかげで、児童が健やかに育っていく様子を目の当たりにし、こんなにさせていただくと恐縮するとともに感謝の念に堪えません。つくづく、本校は家庭や地域に温かく支えられている学校であると自覚しております。

子どもの健全育成は学校だけでないうるものではありません。今のように、学校と家庭と地域が三位一体となって同じ方向性で進めていけることを本当にありがたく思います。私は周りの大人が協力すれば子どもは必ず良く育つと信じております。今後とも温かいご支援をよろしく申し上げます。

「i-バス 木曾川・北方コース」見直しの住民懇談会を開催

連区長 脇田 兼康

1月22日(日)、木曾川庁舎で現在木曾川町内を運行している「i-バス 木曾川・北方コース」の見直しを図る公共交通計画木曾川町連区住民懇談会が開催されました。参加者は、各区の代表で区長さんをはじめ、地域づくり協議会の皆さんです。懇談会に先立ち、現在、市が策定を進めている「第3次公共交通計画」の概要説明がありました。内容は、公共交通の運行状況・利用状況やi-バスの利用状況などです。中でも「i-バス 木曾川・北方コース」の利用状況が悪く、このままでは運行の継続が難しくなるとの説明がありました。概要説明後は、いよいよ懇談会の開始です。

今回のテーマは、「i-バス 木曾川・北方コース」の見直しです。参加者の皆さんは事前に「i-バス」に試乗し、現状の確認と問題点を共有して臨みました。懇談会は、2グループに分かれ、グループ内でのワークショップ方式で進められました。

ファシリテーター（進行役）の進行で、一宮市の地図上に自分たちがよく利用する買い物先、通勤・通学先、医療機関などの目的地に印を記し、どんな交通手段で移動するか付箋に記入しました。移動手段の大半は、自家用車・自転車・徒歩での移動が多く、市外へは鉄道の利用が多くありました。また現行の「i-バス」の運行コースの問題点や利用しにくい点などを話し合い、どのようなコースが良いのかなど意見を出し合いました。



今後、今回の懇談会の意見と昨年8月に実施された町会長アンケートの結果を反映し、運行コースの見直しが図られる予定です。

木曾川町再発見講座(川合玉堂)開催

活気部会長 平林 哲也



1月28日（土）、川合玉堂記念木曾川図書館にて、地域づくり協議会主催『木曾川町再発見講座「日本画の大家・川合玉堂は木曾川町出身！」』を開催しました。地域づくり協議会の新たな企画として、一宮市博物館学芸員さんをお招きし、玉堂の生涯や彼の作品の数々をていねいに紹介していただきました。

図書館の名前に冠する川合玉堂が木曾川町の出身であることは知っていても、彼の生涯や人となり、彼の作品をほとんど知らない地域の方々も多いのが事実です。そんな地域の方々に、この機会を通して知っていただくこと企画した講座には、小中学生を含めて30名を超えるご参加をいただきました。



学芸員さんの解説のあとには、「玉堂作品の値段は?」「博物館が玉堂作品をどのように購入するの?」「地域には川合姓の方も多くいるので、ご親戚では?」「本物の作品は一宮市博物館でいつ見られるの?」「玉堂作品の特徴は?」などなど、たくさん質問が出ました。学芸員さんから、丁寧に答えていただきました。講座終了後、参加者は図書館3階のギャラリーにて、玉堂作品の数々（レプリカ）を鑑賞しました。やはり、解説後の鑑賞は見方が違ってきます。大変実りある講座となりました。

今回の講座を起点として、毎年、この時期に同様の講座を開催したいと思っています。今回参加できなかった方々は、ぜひ来年度お越しください！



黒田小開校150周年記念式典が開催されました

活気部会長 平林 哲也

1月30日（月）、黒田小学校では開校150周年記念の式典が開催されました。体育館の式典会場は5・6年生のみ。1～4年生は、教室でオンライン中継を見ながらの開催となりました。コロナ渦で規模は小さな式典でしたが、全校で「150歳の学校」をお祝いしようとする心温まる式典でした。

校長先生のあいさつの後、150年の黒田小の歴史を振り返るお話、メインゲストの『夢をかなえる』と題したお話、黒田小の歴史と今をちりばめた動画上映が行われ、最後に全校で校歌を歌いました。歴史のお話では、明治6年に学校近くの法蓮寺で始まった「玄圃(げんぼ)学校」に起源を有する黒田小学校は、何度も校名の改称が行われる中、一時は児童数1,700名を超えるマンモス校であったこと、木曾川東小学校が分離したことなど、さまざまできごとを経て、今に至っていることを子どもたちは知りました。

メインゲストは、校長先生のかつての教え子である元独立リーグの四国アイランドリーグ・高知ファイティングドッグス選手、のちに球団社長を務められた梶田宙さん。野球を通して多くのことを学び、どうしたら自分の夢をかなえることができるのか、ご自身の経験に基づいたお話をされました。子どもたちも自分の夢に向かって、どうしたら実現できるのか考えながら聴いていました。黒田小学校の保護者の方が制作された「黒田小学校の歴史と今」をふりかえる動画上映では、自分の顔が写った写真が出てくると子どもたちは大喜び。目を輝かせて見入っていました。



地域づくり協議会では、150周年を記念し、さまざまな年代の方々から自分の小学校時代の思い出を寄稿していただきましたので、その一部を掲載します。同年代の方にとっては、きっと懐かしい思い出がよみがえってくるのではないのでしょうか？

国鉄「踏切番」の思い出（68歳の男性から）

黒田小学校の南東には銀座通りとJR（昔は国鉄）東海道本線が交わる踏切があります。現在の学区制度では、この踏切を渡る黒田小学校の子はいません。では、どのようにして、頻繁に通る列車と自動車や歩行者の安全を確保していたのでしょうか？ この踏切には、常時「踏切番」と言われる人がいたのです。そして、踏切の北東脇には「踏切番小屋」が建っていました。

列車が近づくと「踏切番小屋」に合図が来ます。確かブザーが鳴り、ランプが点るようになっていたと思います。「踏切番」の人は、その合図に従って大きなハンドルを操作し、手動で遮断機を下ろします。今のような道幅半分の長さの棒ではなく、線路と並行に張った道幅いっぱい長さの吊り下げ式遮断機を上下していました。踏切を渡る人や自動車の動きを見定めながら遮断機を上下するのです。



この「踏切番」の人の仕事は、子どもながらに「たいへんだなあ〜」と思って見ていました。私は、この踏切で止められることは嫌いではありませんでした。この「踏切番」の人が、てきぱきとハンドル操作をしている姿が格好よく感じていたからです。学校の放課時間にも、運動場からその仕事ぶりをよく眺めていました。時々、蒸気機関車も煙を吐きながら通る時代でした。また、何十両もの長い貨物列車が通るたびに、何両連結しているのか、みんなで声を上げて数えていました。

今でも、この踏切を渡る機会がよくあり、そのたびに、懐かしく思い出されます。

昭和天皇お召し列車の思い出 (75歳の男性から)



黒田小学校前の東海道線は、昭和31年に電化されるまでは蒸気機関車、今でいうSLが走っていました。自分は確か3年生の時であったと思います。電化される事は以前から話題になっていたので電化当日、今は学区変更で閉じられている東門(当時の正門)前でどんな列車が来るのか待っていると、煙の出ない電気機関車が客車を牽引して来たのを見て、皆で列車に手を振ったのが昨今のように思い出されます。

黒田小学校は東海道線の沿線にあるので、年に1~2回、国体や植樹祭で昭和天皇のお召し列車が通ります。それをお迎えするため、全校児童が線路沿いに整列し、お召し列車の通過時、校長先生の合図で万歳三唱をしたものでした。東京方面から来るお召し列車は、普段見ている真っ黒なSLではなく、ピカピカに磨き上げられた赤銅色で、前部の日の丸が今でも強く印象に残っています。お召し列車は一瞬の通過ですが、天皇陛下は車窓より毎回手を振ってくださっていたのが見えました。

当時は現在の少子高齢化社会とは逆で、1クラス約50名の定員で、6年生の時は6クラスあり、校歌も「1, 500の我々は〜」でした。

私の消防団体験

町田 啓史

地域に役立つと特に考える事もなく毎日を過ごしていた私に、近所の方から消防団へのお誘いが何度かありました。何気なく返事をしていたら平成31年4月、入団をしていました。

消防団員は「自分達のまちは自分達で守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の安全と安心を守るために日々、訓練や諸活動をしています。初めは自分に務まるか不安でしたが、毎月の訓練、車両や防火水槽の点検など、分団長はじめ先輩団員さんが熱心に教えてくださいました。少し忘れかけていた学生時代の部活動の延長のような感じで楽しみながら、活動に参加する事が出来ています。

実際の火災現場へ出動も経験しました。訓練しているとはいえ、緊張と責任を強く感じました。毎日、火災や災害に備えておりますと、何事もなく過ごせる日常のありがたさを感じます。

消防団では仕事で出会う方々とは違い、色々な年代の人たちと交流でき、とても楽しいです。消防団に入っていないのであれば体験できないことも多く、どれも良い経験になると思います。どんな活動をしているか、ご興味がある方、一緒に活動してみませんか？女性の団員も活躍中です!!

